



アビー・ニコラス・フリーさんはアメリカのカリフォルニア州ロスアンゼルス市出身。

50か国を訪れて幾つかの国で生活した経験をお持ちで\*5か国語を話されます。

12年前に来日され、MICかながわ英語医療通訳スタッフ、私立大学非常勤講師、横浜市国際交流協会英語講師を務められています。9月5日の「英語による国際理解講座」で「フランス料理VS日本料理」と題したレクチャーは大変興味深いものでした。

コロナ禍の中ですが、レクチャーの後インタビューをさせていただきました。\*英語、日本語、フランス語、中国語、スペイン語

## Q1 日本にこられた経緯を教えてください。

アメリカでパフォーミング・アーツを勉強して、ミュージカル・ダンサーをしていました。最初、来日したときは東京ディズニーランドで半年間、ダンスと歌の仕事をしました。それからクルーズ船のスチュワードとエンターテイナーとして多くの国を回りましたが、交通事故で怪我をして、ダンサーを諦めて教育関係の分野に進むことにしました。

大学院に行くのに世界のどの都市が良いか考えた結果、東京にしたのです。最初に大学院の入学許可が来た、公共交通機関が便利、東京ディズニーランドの仕事で日本を知っているなどが決め手でした。大学院修了後、マレーシアなど東南アジアの国で仕事をしていましたが、日本は街が安全で清潔、食べ物が美味しい、そして四季があるのでもう一度日本に行こうと決めて、12年前に来日し、現在に至っています。

## Q2 コミュニケーションの仕方やカルチャーなど、日本が他の国と比べてユニークだと感じることはありますか？

- 知らない人とすれ違ったとき、何も言葉を交わさずに通り過ぎる  
アメリカ、オーストラリア、フランスなどでは「こんにちは」など、一言交わす
- よくお辞儀をする
- 各地の名産品をお土産にする習慣がある
- 食べ物が美味しい
- 東京や横浜には外国人が多い地域もあるが、だいたい街には日本人だらけ
- モラルは高いが規則を守らない面もある、例えば違法駐車が多い

## Q3 色々なお仕事を経験の中で最もやりがいや意義を感じたのはどういうことですか？

現在、大学の教員として学生の人間形成を支えること。育成するというより、一緒に学ぼうという気持ちで彼らの学びを支えていることです。また、50か国を回って色々な文化、人々、教えてもらった先生方に会ったことです。

## Q4 いくつもの言語をお話になると伺っていますが、外国語を習得する勉強法を教えてください。

まず、母語をしっかり習得すること。外国語のレベルはその人の母語レベルの高さまで伸びます。従って母語レベルが高いほど外国語レベルも高くなります。

現在、大学で教えている国文学専攻の学生は英語レベルが高いです。

基本は1日15分、毎日聴く、話す、ですが、これを根性で、または習慣にして続けることです。

お勧めはNHKのラジオ講座で、毎日15分やっています。テレビ講座は視覚で学習しているかのように感じてしまいがちですが、実は聴覚は自分が感じているほど訓練されていません。むしろ、ごまかされているとさえ言えます。ラジオの方が集中出来て、聴覚が訓練されます。

4月に始めて夏休みまで続けたら、かなり聴く、喋ることに慣れます。1年続けたら中学、高校レベルの英語を聴いてわかるし、話せる様になるでしょう。

後は体験を積むことに限ります。

- 日本での日常生活を英語で話すなどして、話すことに慣れる
- 留学やホームステイをして、海外の社会生活を通して、聴く、話す体験をすること  
日本人グループで群れてはダメ

## Q5 将来の夢や計画はどういうことでしょうか？

夢も希望もあります。しかし、何も期待しないという構えでいます。というのは、現在のコロナ禍の状況は人類で誰も予想できなかった。私は仕事の3/4を失いました。

将来の計画がどうなるかわからない。とはいえ、今回の日本滞在は長いので、今までの50か国での短期滞在とは違って、人々との付き合いを深めることができている。夢の実現に向けて、健康で仕事を楽しんで、経済力を持ち、勉強を続けていきます。

異色の経歴と並外れた語学力をお持ちのフリーさんはインタビューでも広範なバックグラウンドからの話が次々と出て、聞き入ってしまいました。インタビュー項目以外の話もかなりあって、もう1頁欲しいなと思いました。

(取材・文：編集ボランティア 小島俊彦)



アビーさんと小島編集ボランティア